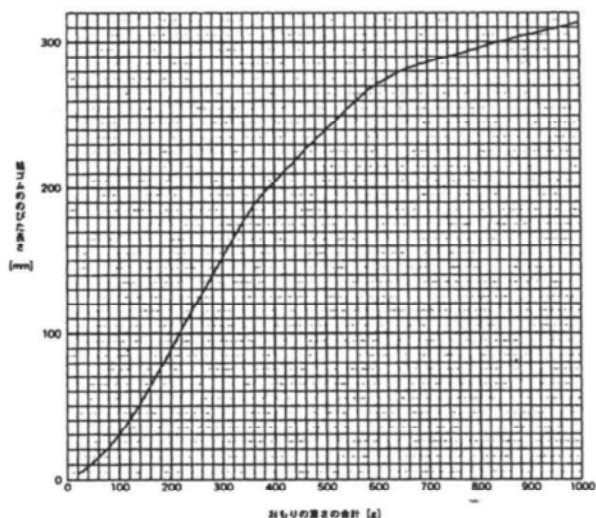


解 答

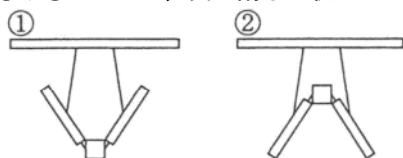
① 問1



問2 1000 gまでの間に、のびがほぼ一定になる部分が3カ所くらいあり、140 g～340 gの間がのびがもっとも大きくなっている。 問3 あらかじめおもりをつるして、のびがほぼ一定になっている範囲内で、量り取れるようにする。例えば、140 gのおもりをあらかじめつるして、このときの輪ゴムの端に「0」の目盛りをつける。340 gまでの間は、20 gあたりほぼ13 mmずつのびるので、6.5 mmごとに10 gの目盛りをふるとよい。

② 問1 ア 問2 ウ 問3 イ

問4 ①や②のように、翼を閉じた状態でつり合ってしまい、羽ばたくことがない。



③

